

国際ワークショップ「生物・医学を物理する」感想文

順天堂大学医学部 6年 大矢めぐみ

まず、このような興味深いワークショップを開催して下さった皆様にお礼申し上げます。

私は現在、医学部最終学年に所属し、国家試験を終えて卒業を目前に控えております。医学部では6年間通じて臨床実習はあっても研究者を育てる教育は行われておらず、研究に興味のあった私は自主的に研究インターンシップなどを行っておりました。興味ある研究分野は様々ありつつも、流動的なインターンシップの経験しかないため今後自分はこういったテーマを具体的に突き詰めたのか、改めて考えるきっかけになればと思い、今回のワークショップに参加いたしました。

医学部で学んでいましたが、昔から物理学には非常に興味があり、また様々な現象についてシンプルな記述を目指すというベースの考え方にはとても心惹かれるものがあります。一方、医学の世界は混沌としており、特に国家試験を控えた学生の私には、細かい知識をとにかく記憶するための学問となってしまっておりました。

そんな中、数理生物学や、生物物理学といった名前での研究分野がはじまろうとしていることを知りました。しかし同時にまだどのテーマも確立したのではなく、生物・医学と、物理・数学の学際領域にあたりそうな分野を広く、「数理生物学」「生物物理学」といった単語で示しているようなイメージを持ちました。

今回ワークショップに参加し、こういった分野名にあてはまると思われるいくつかの事例を知ることができました。そしてその可能性の広さ、アイディアの広さを、痛感いたしました。

個人的には、今まで「物理」が医学の世界において活かされていたのは、検査方法の開発であったり、先進的な治療技術の開発であったり、あくまでアプリケーションとしての活躍であったと感じます。しかし、これからは医学・生物学を理解する、特に包括的でシンプルな理解をするために、物理学の概念を取り入れていくことが、どちらの学問分野においても重要な取り組みになるだろうと感じました。

短期的な結果が見えやすくお金にもなりやすい、となると前者のアプリケーションとしての応用となるのかとも思いますが、私は自分の医学のバックグラウンドを活かす上でアプリケーション的応用も考慮に入れつつ、同時に理解するための応用に力を入れていきたいと感じます。更に、医学的理解を深めるための物理の応用が、物理学自身の理解の進展にも繋がるような研究ができたらとも思っています。

今は具体的には血流などの複雑な流体現象に興味を持っており、流体力学の更なる理解にもつなげられたらと思いますが、まだ今は引き続き、興味の幅を積極的に広げていきたいです。そのためにも広くアンテナをはりめぐらしていければと思います。

今後もこのような興味深いワークショップの開催を、楽しみにしております。またぜひ参加させてください。